



## Don Quijote, Vol.40 montado en un avión

texto : Takeshi Shimizu  
fotos : Atsuko Yokoyama

スペイン各地での  
エピソード③

パスポートを  
盗られそうに...

マドリードのアトーチャ駅から、今度は南に近郊線でトレドへは約1時間20分。まず、トレド駅の芸術的な作りに驚きました。構内の随所に美しいステンドグラスがはめ込まれ、壁はイスラムのモザイク模様。天井も高い。スペインの代表的観光地として知られるこのトレドは、カスティーリャ・ラ・マンチャの中心地。キリスト教、イスラム教、ユダヤ教の三つの文化が混在、1500年以上の古い歴史があります。奥州の伊達政宗に派遣された支倉常長の一行が、1614年トレドを通してマドリードに入城しています。

正午近く、ギラギラと照りつける太陽。すでに摂氏30度を超えています。目指す旧都は丘の上、タホ川を渡った向こうにあります。汗をぬぐいながら橋を渡っていると、向こうから一人の青年がやってきました。カメラをかまえ、自分が橋上のどこに立ったら丘の上の旧都をバックに良い写真が撮れるか、場所を探しているようでした。そして、こちらが行き過ぎようとする、とつさに声をかけてきたのです。

「すみません、シャッターを押してくれませんか?」

観光地です。誰でも、どこでも写真を撮ります。また、それに協力するのも当たり前、お互いさまのことでしょう。

「OK」。私は快く引き受けました。そして彼の指示に従って、カメラを向けたのです。でも、背景が決まっていません。そこで私は、「もう少し左に移動した方が、バックがきれいに入りますよ」と声をかけました。彼は、少し動きを見せたのですが、「いい、いい、そのままいいから」と特に気にする様子もありませんでした。撮影したカメラを彼に戻し、再び目的地に向かおうとしました。と突然、私たちの手前に二人の男が現れ立ちふさがり、ポケットから身分証明書のようなものを取り出すと、少々威厳を込めて言ったのです。

「警察のものだけど、身分証明書、パスポートを見せてください」。スペイン警察の制服は着ていません。もしかしたら、私服の警官かもしれない。でも、瞬間、私にひらめきがあったのです。「きっと、これは偽警察官だ!」妻もそれを察したらしく、「行きましょう、行きましょう、かまわずどンドン行きましょう」と、私の手を引っ張りました。私たちは駆け足でその場を50mほど離れ、追いかけてきていないか気になり、後ろを振り向きました。3人はその場でまだたずんでいました。間違いなく、これは強盗未遂でした。しかも、警察官に名を借りた! 今思えば、あの写真のバックは何でもいいわけであり、まして、カメラにはフィルムさえ入っていなかったのではないかと想像されます。

Toledo